



## 「自立」と「甘え」の関係

今回は、「自立」と「甘え」の関係について考えてみたいと思いますが、「自立を促すためには、子供たちを甘えさせてはいけない」といった単純な話をするつもりはありません。

一説によれば、「甘え」という単語は、英語にもフランス語にもドイツ語にもヘブライ語にも中国語にもなく、日本語にしかないそうです。

「甘え」というと皆さんは、どのようなイメージをもつでしょう。

私は、「甘える」「甘えさせる」という言葉と「甘やかす」という言葉では、意味が全く異なっているのではないかと思います。

「甘やかす」ことに近い言葉として連想するのは、「過保護」ではないでしょうか。しかしながら、多くの場合、親の接し方として「過保護」よりも「過干渉」になっていることが多く見受けられます。

- 先回りして、あれこれやってあげてしまう。
- 他の人に「〇〇ちゃんは、こうしたいんでしょう。こう思っているんでしょう。そうよね。」などと、子供の代弁をしてしまう。 等々

「過干渉」で恐ろしいのは、日常生活で、たくさんの細かい指示を出し、それができないのを許さないという感情が起ってくることです。親の思ったとおりに子供が動かないと、必ず否定的な言葉や態度が混じってきます。

「言われたとおり、早くやりなさい。」「だから、あなたはダメなのよ。」など。

この時の言葉や態度こそが、子供の自己有用感を低め、場合によっては心の傷となって後々まで残ってしまうのです。

上手に「甘える」「甘えさせる」ことは、「自立」にとっても大切なことです。

ある研究によれば、幼児期に母親が、ほとんど抱くこともなく突き放してしまうと、子供は言葉の習得や情緒の発達が遅れてしまうそうです。子供の能力や情緒は、親に甘えることによって身に付いたり、発達したりします。

これは、その後の「自立」を含めた時期の生き方にも関わってくることです。

上手に「甘える」ことができる子は、情愛や感謝を身に付けることができます。

「私は、親に愛情をもって育ててもらった。成長を喜んでもらった。」

→「本当にうれしかった。」

→「私も人にうれしい思いをさせたい。将来、こんな家庭をつくりたい。」

ということになると思います。

上手に「甘えさせる」ことができる親は、寛容です。

「ダメなことはダメだけれど、ここは親として、人生の先輩として、許してあげよう。待ってあげよう。」

→「失敗はつきもの。怒ることではない。」

→「失敗を乗り越えて挑戦する我が子は、本当にかわいい。頼もしい。」

となるでしょう。

親子関係の中で培われた信頼関係は、「自立」の時期に他人にもあてはめられていきます。他人にも上手に甘えたり、甘えさせたりしながら、豊かな人間関係を社会の中で築いていくのです。

